

「ほら体操もできるよ」

全身マヒ少女奇跡の回復 京都



元気に体操をする葉歩ちゃん(左は父の直樹さん、右は母のレイ子さん)自宅で

ドーマン治療法



ドーマン博士

知能回復めざましい

ドーマン博士の話「アファは障害がかなり重かったが、最初の九か月で健常児の三八%の成長率にまで回復した。その後の回復は驚異的で学習知能の進歩もめざましく正常の二倍近い進歩ぶりだ。親の意気込みがあったから……」

後天性の脳障害で全身がマヒ、言葉もほとんど話せなかった京都市西京区の十歳の少女が、元騎手の福永洋一さんを治療したことで知られる米国フィラデルフィア、ケレン・ドーマン博士の人間能力開発研究所の指導で奇跡的に回復。体操ができて、絵本を作り、バイオリンが弾けるまでになり、復学も可能な状態となった。両親が二年がかりで付きつきの機能回復訓練をしたことが実ったもので、日本でのドーマン治療成功の第一号。同博士は十一日、久留米大学で開かれる小児脳神経学会で成果を報告する。

訓練に明け暮れる二年が過ぎ、今では走る以外はほぼ健全児並み。レオタード姿で体操もこなせるようになった。今やテレビゲームまでできるようになった葉歩ちゃんは「つらい訓練だけど、いつか大事な事が出来るようになったらいい」と目を輝かせ、両親は「訓練法を信じた方がいいがありました。遊び盛りなのに、辛抱してくれ」と勝ち取った機能回復に感激している。

少女は、西京区下津林佃、も困難で、小学校へ入学したのも二年で中断。両親は絶望したが、六十一年二月、神戸市小児科医佐本進さん、後一か月で食道障害が起き、戸市の小児科医佐本進さん、手術を受けたが、この時、呼吸と心臓が一時停止したが、原因で脳性マヒになった。三歳になっても手足が自由に動かせず、発育も不十分、言葉や感覚もマヒしていた。同博士は「脳細胞の一部が損なわれても、使うことにより成長。回復の可能性は無限にあり、運動刺激でそれを

両親が2年間特訓

市内の病院へ通い、訓練も受けたが効果なく、全身けいれんが起き、歩くこと